

浅草紙

日本は江戸時代。この頃の紙もまだまだ高級品で、使い終わった紙は、専門業者によって回収され、「漉き返し」と呼ばれる再生紙となり二度三度と繰り返し使われました。

今のように機械などない時代です

が、職人による手仕事による再生紙作りの技術は大変進んでいました。

漉き返し紙は、江戸で「浅草紙」と呼ばれ、落とし紙や壁やふすまの腰張りなどに使われていたそう。他には京の「西洞院紙」、大阪の「湊紙」などがありました。

まさに、我が社と同じ仕事がここ大阪の江戸時代にもあった訳です。現在は、再生紙の質、強度などの技術の向上に伴い、食品パッケージからインテリアまで幅広い用途に使われています。これからも、江戸時代から続くこの仕事をもっと発展させるべく、日々進歩したい次第であります。(つづく)



浅草紙



吉原にひやかしへ

当時の再生紙の作り方は、

- ① 古紙を細かくする
- ② 窯で煮て紙の繊維を解きほぐす
- ③ 桶で冷やす
- ④ 水を絞り川で洗う
- ⑤ 板上で叩き平らにする
- ⑥ 木製の枠で漉く
- ⑦ 乾かす

この③の行程に時間がかかり、その待ち時間に職人達が吉原を見物していたことから、買っ気のない客のことを『ひやかし』と呼ぶようになったそうです。



[box]

>>>BOX : DK whiteA,310g/㎡

>>>PROCESSING : offset printing (full color)

DK WHITE



DK ホワイト A

— DK ホワイト A

— 310g/㎡ -450g/㎡

— 古紙配合率 100%

— ナチュラルな白を表現。牛乳パックなど飲料容器古紙と長繊維古紙を使用。

大和板紙株式会社

〒582-0004 大阪府柏原市河原町5番32号
TEL.072-971-1445 FAX.072-971-1449
E-mail daiwa@ecopaper.gr.jp
http://www.ecopaper.gr.jp

資料請求・お問合わせは
左記までお気軽にどうぞ!